



運動会に捧ぐ

～たった1つの私たちの「母校」～

まもなく今年の大運動会を迎えます。私には、運動会の季節になるといつも思い出す光景があります。

両軍が熱く燃えた運動会も閉会式を迎えた。白軍の優勝が発表され、歓喜する白、悔し涙を流す赤。そしてお互いの健闘をたたえ合うエール交換が行われ、閉会式も感動のうちに終わりを迎えようとしたその時だった。

「もうすぐお別れする、この校舎とグラウンドに、感謝の気持ちをこめて、全校生徒でエールを贈ります！」

優勝した白軍の組頭 S だった。閉会式の予定にはない、運動会担当の先生も知らない、両軍幹部の生徒たちが考えたサプライズだった。

「両軍校舎の方を向いて！ フレー！フレー！一中、ソーレ！」

S のリードに導かれて全校生徒で贈った校舎に対するエール。数百人の声がグラウンドに響きわたった。暑い日差しの中で、その余韻は、まるで永遠に消えないかのように感じられた。

そうです。この「一中」というのは、3ヶ月後に新校舎移転を控えていた、26年前の東根一中です。現在は東根中部小が建っていますが、グラウンドはほとんど昔のままで、私にはとても懐かしいです。中部小に行くと、あの時のエールが今でも聞こえてきそうな感じがします。

「この校舎とグラウンドで行う最後の運動会」という特別な思いが、当時の一中生にはあったのです。その「当時の一中生」が、今の保護者の中にもたくさんいらっしゃいますよね。もちろんみなさんにとっても同じだと思いますが、その時一中に勤めていた私たち教職員にとっても、決して忘れられない思い出の一つになっています。これが「一中」です。こういうドラマを味わわせてくれるからこそ、私は一中が大好きなのです。



今年の運動会に、一中生は、どんなドラマを楽しませてくれるのか。私のワクワクは日増しに大きくなっていきます。